

令和4年度

南アルプス市教育委員会
点検及び評価報告書

【令和3年度事務事業分】

令和4年8月

南アルプス市教育委員会

目 次

I 点検及び評価について

- 1 趣旨 1
- 2 点検及び評価の対象とした事務 1
- 3 評価の点数表 1

II 点検及び評価のまとめ

- 1 教育委員会の活動に対する点検及び評価 2
- 2 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価 2

III 教育委員会の活動についての点検及び評価

- 1 教育委員会の活動状況 8
- 2 教育委員会の活動に対する点検及び評価 13

IV 教育委員会事務局の事務事業についての点検及び評価

- 1 教育委員会事務局の事務事業について 15
- 2 第2次南アルプス市総合計画 体系（教育委員会関係抜粋） 15
- 3 南アルプス市の教育振興プラン 体系（抜粋） 16
- 4 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価について 17

I 点検及び評価について

1 趣 旨

南アルプス市教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書を作成し、南アルプス市議会に提出するとともに、市民の皆さまに公表をしています。

これは、教育委員会の責任体制を明確化するため、平成 19 年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正において義務付けられたものです。

南アルプス市教育委員会では、自らが点検及び評価を行った結果を、今後の事務の執行に反映し、効果的な教育行政を推進していきます。

2 点検及び評価の対象とした事務

(1) 教育委員会の活動に対する点検及び評価

委員自らが教育委員会活動の内容を振り返り、評価を行った上で評点し、意見を記載しました。

(2) 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価

南アルプス市では南アルプス市総合計画の進行管理を行うための手法として、行政評価システムを取り入れ、すべての事務事業に対して「事務事業マネジメントシート」を作成し、内部評価を実施しています。

点検及び評価に関しては、この行政評価システムを活用し、南アルプス市教育委員会に属する事務事業の執行状況等について振り返り、取りまとめを行いました。また、平成 29 年 4 月に策定した「南アルプス市の教育振興プラン」との関連について、施策の体系にある 8 つの施策に該当する番号を事務事業ごとに表示しました。

ただし、事業選択や予算規模に自由裁量がない「国・県の制度による義務的事業」や「義務化されている協議会等の負担金に係る事業」については、対象外としました。

- | |
|-----------------------------------|
| ①事務事業総数：171事業 |
| ②点検及び評価した事務事業118事業 |
| ③点検及び評価から除いた事務事業：53事業 |
| ※義務的事業及び義務化されている協議会等の負担金に係る事業を除く。 |

3 評価の点数表

評価の点数は、「5」から「1」までの5段階評価で行いました。

5	目的をはるかに超え達成、他への波及効果などが見られる。
4	目的以上に達成
3	目的どおり達成
2	目的までは達成できなかった。
1	目的までまったく達成できなかった。

II 点検及び評価のまとめ

1 教育委員会の活動に対する点検及び評価 (P13、2(1)～P14、2(4)の4項目の平均)

平均評点：3.2

教育委員会定例会を12回開催しました。会議では、条例等の制定、一部改正、重要案件の審議、教育委員会所管の各種委員会等の委員の選任を行いました。

また、定例会は新型コロナウイルス感染症対策の観点から、昨年度に引続き、会議に出席する関係職員を必要最小限に制限して時間の短縮を図り、効率的な会議運営を行いました。

研修会等については、オンラインによる研修に参加することで、他の地域の活動状況を知ることができ、資質の向上に寄与することができました。

学校訪問については、訪問人数、懇談時間を短縮する等を実施し、効率よく小中学校22校を訪問し、各学校が抱える課題を知ることができました。

2 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価

(1) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名：26 生涯学習の推進 (P17～施策26の42事業の平均)・・・平均評点：2.7

「公民館運営」では、公民館の館長、主事が中心となり、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、4館で事業を計画しましたが、地区主体の公民館活動については、やむを得ず中止した地区と、事業を縮小したり、工夫を凝らした上で実施し住民の交流や文化の振興を図る地区がありました。

また、「生涯学習推進事業」では、コロナ禍においても、施設の感染対策ガイドラインに基づき、人数制限を行ったうえで、学習機会や情報の提供を実施しました。市民が各種講座等を通じて学ぶ喜びを感じられる環境づくりに取り組み、生涯学習活動の促進を図りました。また、市民主体の学習活動を醸成するため、「自主企画講座」の開催に注力しました。

一方で、社会教育団体の活動については、昨年度同様、コロナ禍においても事業実施できた団体から、工夫を凝らした点や、これまでの活動を見直し、改善した点などを聴き取り、その内容を他団体に紹介することができました。

「スポーツ推進委員運営事業」、「南アルプス市スポーツ協会事業」では、コロナ禍で引き続き中止となるイベント・教室もありましたが、感染症対策を講じながら実施できた事業もあり、ウイズコロナ時代に向けた事業実施を試行しました。

また、東京オリンピックで注目を集めたスケートボードの初心者教室を、県スケートボード協会と連携し開催することができました。

「体育施設維持管理」では、老朽化などに伴う各施設の修繕を積極的に行い、利用者が安心・安全に使用できる環境整備に努めました。

「各種社会教育施設、社会体育施設」では、直営施設及び指定管理施設ともに、効率的な管理運営に努めました。また、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上での利用内容を規定したガイドラインを徹底し、継続した運営に努めました。

また、若草地区拠点施設周辺整備事業では、若草保育所の移転新築にあわせ、減少する駐車スペースを確保するための再整備を計画し、実施設計を完了しました。

市立図書館では、新型コロナウイルス感染症対策による利用の制限がありましたが、臨時窓口を設置してサービスの継続を図り、資料貸出数・利用者数はともに前年度より上回りました。

図書館が実施する事業においては、消毒・検温や人数制限等を徹底し、人との接触を減らす方法を工夫しながら実施し、こちらも参加者数が前年度より上回りました。

子ども向け事業では、「事前申込制おはなし会」「ブックスタート・セカンドブック・サードブック」事業、「夏休み行事」等、子どもたちが小さいときから読書に親しみ、読書習慣を身に付けられるような定期的事業のほか、各分野で取り組みが行われているSDGsをテーマにした、「市立図書館をめぐるSDGsについて知ろう」、短時間で新しい本との出会いを提供する「ワクワク！おたのしみ袋」等を行いました。

一般向け事業では、「朗読会」「講演会」「シニア講座」等を行い、市民の幅広い学習活動を支援しました。また、本を通して関係各所と連携を図り、市立美術館とはコラボ企画「読書で感じる風林火山」「美術館に行こう！」を行いました。

ふるさと人物室では、南アルプス市にゆかりのある人物の企画展や講演会を行い、ふるさと教育の推進を図りました。

子どもの読書活動推進協議会では、「第4次子どもの読書活動推進計画」を策定し、いつでも・どこでも・だれでも読書を楽しむことができるための環境を整えました。

市立美術館では、新型コロナウイルス感染症対策として入館者へ検温及びチェックシートの記入や各展示室の人数制限を行い、感染防止対策の徹底を図り開館を続けました。

企画展では「リサとガスパールのおもいで展」、常設展では「スター作品勢揃い展」や「信玄公」など魅力ある展覧会の開催に努めました。

教育普及事業では企画展や常設展に合わせたワークショップの開催や子どもから大人までを対象としたワークショップや美術体験講座、さらに学校からの要請に応じて職員が学校に出向きワークショップを行う「出張美術館」にも応じ博学連携を推進しました。

常設展期間中、新型コロナウイルス感染症対策のため35日間（休館日含）の臨時休館となりましたが、計画通りの展覧会の開催ができました。

(2) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 27 歴史・伝統文化の振興 (P22~施策 27 の 13 事業の平均)・・・平均評点 : 2.8

「文化財の保護」では、所有者・管理者への適切な助言や補助事業の実施などに努める一方、「教育普及事業」を実施し、実施回数は161回、参加延べ人数6,632人を数えました。内訳は小中学校等に出向き授業を行った回数が126回、教職員向けの研修が5回、その他一般向けの講座等が30回でした。実施数、参加のべ人数とも前年度に比べ増加しており、令和2年度に比べ、新型コロナウイルス感染症対策による影響は少ないものになっています。

「埋蔵文化財」では、市内における公共事業や民間開発と調和した遺跡の保護を図るために、適時適切な試掘確認調査等の実施に努めました。本年度の試掘調査の実施件数は17件、工事立会件数は125件でした。また、史跡整備に関連して、国指定史跡御勅使川旧堤防のうち柵形堤防の整備に向け、実施設計を行いました。整備工事は、令和4・5年度を予定しています。

「ふるさと文化伝承館」は、ふるさと〇〇(まるまる)博物館推進事業と連携した新たな展示やイベントを行うなどしました。感染症対策を講じ、PRに努めたこともあり、年間の入館者は5,484人と、前年比119%と増加し、コロナ禍の影響は、令和2年度から軽減しています。また、「ふるさと文化伝承館」は令和3年11月に、博物館法に基づく、登録博物館になっています。

「安藤家住宅管理運営事業」、「同イベント開催事業」では、重要文化財としての「安藤家住宅」の価値を損なわないよう適切に管理しながら、地域文化発信の拠点として利用してもらえるよう、新型コロナウイルス感染症対策によりできうるイベントや催事を行い、活用を図りました。年間の入館者数は3,227人で前年比125%と増加し、こちらも新型コロナウイルス感染症対策の影響は、令和2年度から軽減しています。

「ふるさと〇〇博物館推進事業」では年次計画に基づき、令和3年度は、甲西地区を集中調査地区として実施しましたが、コロナ禍により、十分なフィールドワークを行うことができませんでした。一方で、地域資源のデジタルアーカイブへの登録件数は順調に増え、令和3年度末時点で、前年度20%増の792件となりました。

(3) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 28 学校教育の充実 (P24~施策 28 の 45 事業の平均) 平均評点 : 2. 9

「育英奨学会事業」では、奨学生の選考等について、適正な事務を執行することができました。

「就学援助事業」においては、小中学校に通う経済的に恵まれない児童・生徒への適切な支援を行いました。

「市指定研究事業」では4つの指定校研究事業に取り組みました。

1つ目の「学びの質を高める授業づくり推進事業」については、3校(豊小:2年目、落合小:1年目、白根巨摩中:1年目)を指定校とし、児童生徒がお互いの考えや表現を聴き合い、学び合う授業づくりについて研究を推進しました。

2つ目の「南アルプス自然体験推進事業」では、ユネスコエコスクールに認定されている芦安小中学校を指定校とし、事業を展開しました。新型コロナウイルス感染症対策の影響もありましたが、できる限りの活動を実施し、自然を愛する心や人間性を育む取り組みを行いました。

3つ目の「いじめ・不登校未然防止推進事業」では、市内全小中学校でQ-U検査を実施し、学級状態の把握を行い、支援を必要としている児童生徒への早期対応を図りました。

4つ目の「小中学校における小笠原流礼法推進事業」では、新型コロナウイルス感染症対策のため、実施回数は減りましたが、師範を全小中学校に派遣し、礼法を取り入れた心の教育を推進するとともに、全小中学校で礼法に則った卒業証書授与式を行いました。

「市単講師派遣事業」では、34名の市単講師等を小中学校へ配置し、多人数学級への対応、複式学級の解消、特別支援教育の推進、基礎学力の向上及び一人ひとりの特性に応じたきめ細かな指導の充実等を図りました。

「教育支援センター事業」では、小学校5・6年生も通所対象に入れ、学校へ登校することが困難な児童生徒が通う適応指導教室として、家庭や学校と連絡を取りながら学校復帰を目指して、学習支援、教育相談を行いました。

「外国語指導講師配置管理事業」では、小中学校にアドバイザー1名と11名のALTを配置し、「聞く・話す」ことを中心に指導を行い、児童生徒のコミュニケーション能力の向上を図ることができました。また、生の英語に触れる中で、他国の文化や外国語(英語)に親しみをもたせることや国際的な理解を深めることに努めました。

「小中一貫教育研究推進事業」では、八田地区・芦安地区で小中一貫校3年目を迎え、推進協議会で成果と課題について話し合いました。新型コロナウイルス感染症の影響で、議論が足踏み状態となってしまいましたが、楢形・若草・白根巨摩地区では協議会を開催し、それぞれの地域の特徴を生かせるような一貫校設置に向けての取り組みを進めました。

「教育環境づくり」では、「スクールガードリーダー事業」や地域ボランティアを活用した「学校応援団育成事業」に取り組み、児童生徒の安全確保や教育活動全体の充実を図りました。

「学校給食費支援事業」では、市内に住所を有し、同一世帯において小中学校へ3名以上の子どもが通っている保護者157名に対し、4月から2月の11ヶ月分の給食費の一部助成を行いました。

「各学校給食」では、油や小麦粉など給食用の食材の値上げが続く中、献立や配膳の工夫をしながら提供を行いました。また、アレルギーマニュアルに基づき、児童・生徒のアレルギー食への対応を実施しました。給食費の未納については教育的配慮のもと、私債権管理条例について説明し督促をしながら給食費の徴収を行いました。

また、給食費を滞納している保護者からは同意を得た上で、児童手当からの徴収を行い、収納率の向上に務めました。さらに学校での三者懇談後に保護者との面談の機会を持ち、給食費の納付について理解を求め、納付を促しました。

(3) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 29 学校施設の整備 (P29~施策29の6事業の平均) 平均評点 : 3.0

「小学校施設設備整備事業」では、市立15小学校の既存施設・設備の維持管理や、環境改善のための改修及び更新を行いました。

「落合小学校校舎大規模改造事業」では、校舎大規模改造工事に続き、校舎周辺の駐車場・渡り廊下及びグラウンド拡張整備を行い、教育環境の改善を図りました。

「楡形北小学校排水設備改修事業」では、公共下水道の供用開始に伴い、校内の浄化槽設備を撤去し、公共下水道への接続工事を実施しました。

「若草小学校改築事業」では、新しい学校づくりの基礎となる「若草小学校改築基本計画」を策定しました。

「中学校施設設備整備事業」では、市立7中学校の既存施設・設備の維持管理や、環境改善のための改修及び更新を行いました。

「若草中学校部室等改修事業」では、老朽化した部室棟の改築及び駐輪場移設、テニスコート改修工事の設計業務を実施しました。また、解体した給食センター跡地に舗装工事を実施しました。

(4) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 30 青少年の健全育成の推進 (P30、施策 30 の 12 事業の平均) ・ 平均評点 : 2. 2

「青少年対策事業」の国内交流・交流支援事業では、夏休み期間を利用した交流は、各姉妹都市とコロナ禍における実施の可否を十分に協議した結果、すべて中止しました。

また、青少年育成南アルプス市民会議で実施する事業や子ども活動、イベントの支援、また南アルプス市子どもクラブ指導者連絡協議会への支援については、地域の青少年育成推進員、学校、家庭、地域関係団体が連携する中で、コロナ禍での「新しい生活様式」の中で開催できる事業を取捨選択し、心身ともに健やかな次代を担う青少年の健全育成を図りました。

「成人式挙行事業」においては、新成人が主体的に取り組むことができるよう、本市初の実行委員会を立ち上げました。感染症対策を踏まえた会場変更や式典の縮小、また、緊急事態宣言の発令を受けて首都圏から参加できない新成人の為に、YouTube市公式チャンネルを活用し、式典をライブ配信しました。さらに、すべての新成人がふる里や仲間を思い、同じ時間に門出を祝えることができるよう、中学校時代の各恩師の応援メッセージ動画を添えました。式典には、663人が参加し、ライブ配信の視聴回数は749回を数えました。新成人自らが、様々な方策を企画し、様々な形で参加できる式典として工夫し、成果をあげることができました。

地域や学校で、リーダーとして活躍する子どもを育成するための「ジュニアリーダー養成事業」については、市内の中・高校生を対象に、感染症対策を施す中で、年間4回開催することができました。地域や学区を超えて参加する研修生の中に仲間意識が広がり、それぞれの意欲向上につながり、学校の生徒会役員や、新たな目標に向かって部活動や行事に参加するなど、互いを高め合うことで大きな成長に繋がりました。

Ⅲ 教育委員会の活動についての点検及び評価

1 教育委員会の活動状況

教育委員会は、教育行政の中立性・安定性を確保するため、地方公共団体の長から独立して設置されています。

平成27年4月1日施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により現在、教育委員会の構成は教育長と5人の委員で構成しています。

(1) 教育委員会の定例会・臨時会

教育委員会は、原則として、毎月会議を開催しており、合議により教育行政の基本方針や重要事項などを審議し決定しています。

また、必要に応じて、随時、臨時会も開催しています。

○開催状況・・・定例会 12回

開催月日 (区分)	案件区分	件名
4月16日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市社会教育委員の委嘱について ・南アルプス市公民館運営審議会委員の委嘱について ・南アルプス市スポーツ推進委員の委嘱について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・緊急連絡網について ・南アルプス市教育委員会年間行事（前期）及び4・5月行事予定について
5月25日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市社会教育団体の認定について ・南アルプス市文化財保護審議会委員の委嘱について ・南アルプス市子どもの読書活動推進協議会委員の委嘱又は任命について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会6月行事予定について
6月25日 (定例会)	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・教育振興プラン策定委員会について ・山梨県知事による臨時特別協力要請に基づく各施設にの対応について ・指定学校変更の許可状況について ・小中学校の新型コロナウイルス感染症状況と対応について ・緊急連絡網について ・南アルプス市教育委員会7月行事予定について
7月16日 (定例会)	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・小中学校の新型コロナウイルス感染症状況と対応について ・南アルプス市教育委員会点検及び評価報告書の作成について ・南アルプス市教育委員会7・8月行事予定について
8月6日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・中巨摩地区中学校教科用図書採択協議会の協議結果について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会点検及び評価報告書について ・南アルプス市教育委員会8・9月行事予定について

9月22日 (定例会)	議事	・南アルプス市美術館協議会委員の委嘱について
	その他	・南アルプス市の教育振興プランの進捗状況について ・指定学校変更の許可状況について ・小中学校の新型コロナウイルス感染症状況と対応について ・緊急連絡網について ・南アルプス市教育委員会9・10月行事予定について
10月26日 (定例会)	その他	・指定学校変更の許可状況について ・小中学校の新型コロナウイルス感染症状況と対応について ・南アルプス市教育委員会年間行事予定（後期）及び10・11月行事予定について
11月11日 (定例会)	議事	・南アルプス市いじめ防止連携会議等設置条例の制定について
	その他	・指定学校変更の許可状況について ・小中学校の新型コロナウイルス感染症状況と対応について ・南アルプス市教育委員会11・12月行事予定について
12月16日 (定例会)	その他	・第2次南アルプス市教育振興プランの策定について ・長寿命化計画第1次実施計画の進捗状況について ・指定学校変更の許可状況について ・小中学校の新型コロナウイルス感染症状況と対応について ・南アルプス市教育委員会12・1月行事予定について
1月26日 (定例会)	議事	・南アルプス市ふるさと人物室運営委員会委員の委嘱又は任命について
	その他	・指定学校変更の許可状況について ・小中学校の新型コロナウイルス感染症状況と対応について ・南アルプス市教育委員会1・2月行事予定について
2月24日 (定例会)	議事	・南アルプス市教育委員会事務局等組織規則の一部改正について ・南アルプス市学校運営協議会規則の制定について ・南アルプス市社会体育施設条例の一部改正について ・南アルプス市学校体育施設等の利用等に関する条例の一部改正について
	その他	・指定学校変更の許可状況について ・小中学校の新型コロナウイルス感染症状況と対応について ・南アルプス桃源郷マラソン大会について ・第4次子どもの読書活動推進計画について ・南アルプス市教育委員会2・3月行事予定について

3月24日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次南アルプス市教育振興プランの策定について ・南アルプス市小中一貫校に関する規則の一部改正について ・南アルプス市スポーツ推進委員の委嘱について ・南アルプス市白根B&G海洋センター条例施行規則の一部改正について ・南アルプス市社会体育施設条例施行規則の一部改正について ・南アルプス市学校体育施設等の利用等に関する条例規則の一部改正について ・南アルプス市生涯学習人材バンク設置要綱の一部改正について ・南アルプス市桃源文化振興協会補助金交付要綱の一部改正について ・公益財団法人南アルプス市スポーツ協会補助金交付要綱の一部改正について ・第4次南アルプス市子どもの読書活動推進計画の策定について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・小中学校の新型コロナウイルス感染状況と対応について ・保護者地域向けリーフレットについて ・フリースクールのガイドラインについて ・南アルプス桃源郷マラソン大会について ・南アルプス市教育委員会3・4月行事予定について

(2) 学校訪問

教育委員会では例年、5月～6月にかけて市立小中学校22校を訪問し、子どもの様子や教員の指導方法など、細かく見て回っています。視察終了後は、学校側と意見交換を行い、課題があれば改善するよう助言を行っています。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策をする中で、市内小中学校22校の学校を視察しました。

(3) 研修会等への参加

教育委員会では、例年各種研修会、総会及び大会等に積極的に参加し、教育行政に関する情報収集や各市町委員との意見交換等を行い、各自の資質向上に努めていますが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、書面決議やオンライン研修により参加しました。

1 中北地区教育委員会連合会

月日	件名	出席者
4月	令和3年度定期総会及び研修会	教育委員・教育長
9月	第1回理事会（書面決議）	教育長・教育長職務代理
2月	第2回理事会（書面決議）	教育長・教育長職務代理

2 山梨県市町村教育委員会連合会

月日	件名	出席者
7月	第1回理事会（書面決議）	教育委員
11月	秋季研修会（動画配信）	教育委員・教育長
2月	第2回理事会（書面決議）	教育委員
2月25日	定期総会及び春季研修会（書面決議）	教育委員・教育長

3 県外研修

月日	件名	出席者
6月	関東甲信越静市町村教育委員会連合会定期総会並び研究大会（千葉県） 書面決議・オンライン研修	教育委員・教育長
10月	中北地区教育委員会連合会 教育事情県外視察研修 中止	—
11月	南アルプス市教育委員会県外研修 中止	—

4 総合教育会議

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により、平成27年6月から開催しています。政策推進課主催のもと、市長が招集し、市長、教育長、教育委員の構成により、市長と教育委員会との対等な執行機関同士の協議・調整を行っています。

○開催状況・・・年1回

開催月日	案件区分	件名
2月8日	協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育の充実（GIGAスクール）について ・ふるさと文化伝承館の現状と展望について

その他各種大会・行事への出席 ※全教育委員が出席対象のみ掲げてあります。

月日	件名
4月	市内小中学校 入学式（規模縮小）
5月	南アルプス桃源郷マラソン大会 中止
5月19日	教育講演会
5月20日	青少年育成南アルプス市民会議総会 書面決議
10月21日	中北地区地域教育フォーラム
11月2日	芦安小中英会話科 学校説明会
11月18日	市町村教育委員会オンライン会議
11月24日	拡大校内研究会（落合小学校）
11月26日	公開研究会（豊小学校）
12月15日	拡大校内研究会（白根巨摩中学校）
1月9日	成人式（規模縮小）
2月9日	研究発表会・教育講演会
3月	市内小中学校 卒業式（規模縮小）

2 教育委員会の活動に対する点検及び評価

教育委員会としての自らの活動内容を「教育委員会の定例会議・臨時会」、「教育委員会と事務局の連携」、「教育委員の自己研鑽」及び「学校など教育施設への支援」の4項目に分け、それぞれに点検項目を設け、教育委員自らがその目的に照らし、評価を行った上で評点し、意見を記載しました。

また、その他の意見シートにおいては、教育委員会事務局の活動の中で、特に気がついた点を記載しました。

(1) 教育委員会の定例会議・臨時会

点検項目	会議の開催回数	評点	3.0
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○定例会 12回 ・教育委員会会議規則に基づき、定例会を毎月1回開催した。(審議案件数:24件) ・新型コロナウイルス感染症対策の観点から、効率的な会議運営を行い、時間短縮を図った。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ① 会議は全て予定どおりに開催され、議案はいずれも慎重かつ効率的に審議が行われた。 ② 新型コロナウイルス感染症対策を十分考慮し、必要最小限の人数で時間短縮を図り、効率的かつ厳正に審議が行われている。 ③ 議事・運営・資料等の準備も適切になされていた。 ④ 必要な会議の回数は確保されている。 		

(2) 教育委員と事務局との連携

点検項目	情報提供等	評点	3.5
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・議案や資料を事前に配布することで、会議等までの調査研究が可能となるよう、情報提供を行った。 ・会議日程についても、事前調整を図り、可能な限り出席できるよう連絡調整を行った。 ・新型コロナウイルス感染症対策に伴う教育施設の臨時休館及び、学校における感染状況の情報提供を行った。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ① 会議の資料等が事前に送付され、前もって内容の検討をすることができ、問題意識をもって、会議に臨むことができた。また、議案をより適正に審議することができた。 ② 資料内容もよく整理されており、情報を的確に共有することができた。 ③ 議事の根拠に基づく規則等が配布され、改めて行政の仕組みが理解できた。 ④ 学校現場の様子が分かる資料等、適宜いただくことができた。 		

(3) 教育委員の自己研鑽

点検項目	研修会等への参加	評点	3.0
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策の観点から、中止になった研修を除き、オンラインによる研修に参加した。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ① コロナ禍の中でも開催に向けて努力していた。 ② ICTの研修などに参加することにより、教育委員としての資質向上に有意義であった。 ③ コロナ禍のため中止や書面決議が多く研修の回数は減少したが、オンライン研修や各種の研修会へ参加し、教育行政が直面している問題や課題解決に向けて、現状や活動等への知見を深めることができると同時に、教育委員としての資質向上に有意義であった。 		

(4) 学校・教育施設への支援

点検項目	学校訪問	評点	3.3
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の小中学校 22 校の学校訪問を行い、各教室の授業内容を視察した。 ・市内 22 校の学校長から課題や要望を聞いた。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ① コロナ禍ではあったが、訪問時間や訪問人数、懇談時間などを制限し、視察方法を検討して学校訪問を行い、効率よく全 22 校を視察することができた。 ② 各学校の児童生徒の実態や、教職員の様子、施設設備の様子等、学校現場の抱えている問題等を知ることができた。これからの支援の在り方を考える良い機会となると同時に、良い支援につなげていくことを期待したい。 ③ 児童生徒の様子やコンピュータを使用している授業を見ることや教職員の指導状況を知ることができた。 ④ コロナ禍でクロームブックの活用範囲が広がっていくと思われるが、引続き、取り組んでいただきたい。 ⑤ 各学校の課題が年々少しずつではあるが、課題解消に向けて進んでいる。 ⑥ 特別支援教育の難しさを改めて知り、9年間の指導の在り方など大きな課題があると感じた。 ⑦ 学校施設が年ごとに改築・改善され児童生徒の学びの場が、快適かつ安全になっていくのが分かった。 ⑧ コロナ禍でも落ち着いて子ども達が生活し、かつ教職員の授業や生活への工夫が随所に見られた。 ⑨ ICTを使いこなしている学校が多いと感じた。 		

IV 教育委員会事務局の事務事業についての点検及び評価

1 教育委員会事務局の事務事業について

南アルプス市では、南アルプス市総合計画を策定し「自然と文化が調和した幸せ創造都市・南アルプス」という将来像を掲げています。教育委員会部門においては、この将来像の実現のため、基本政策が設けてあります。

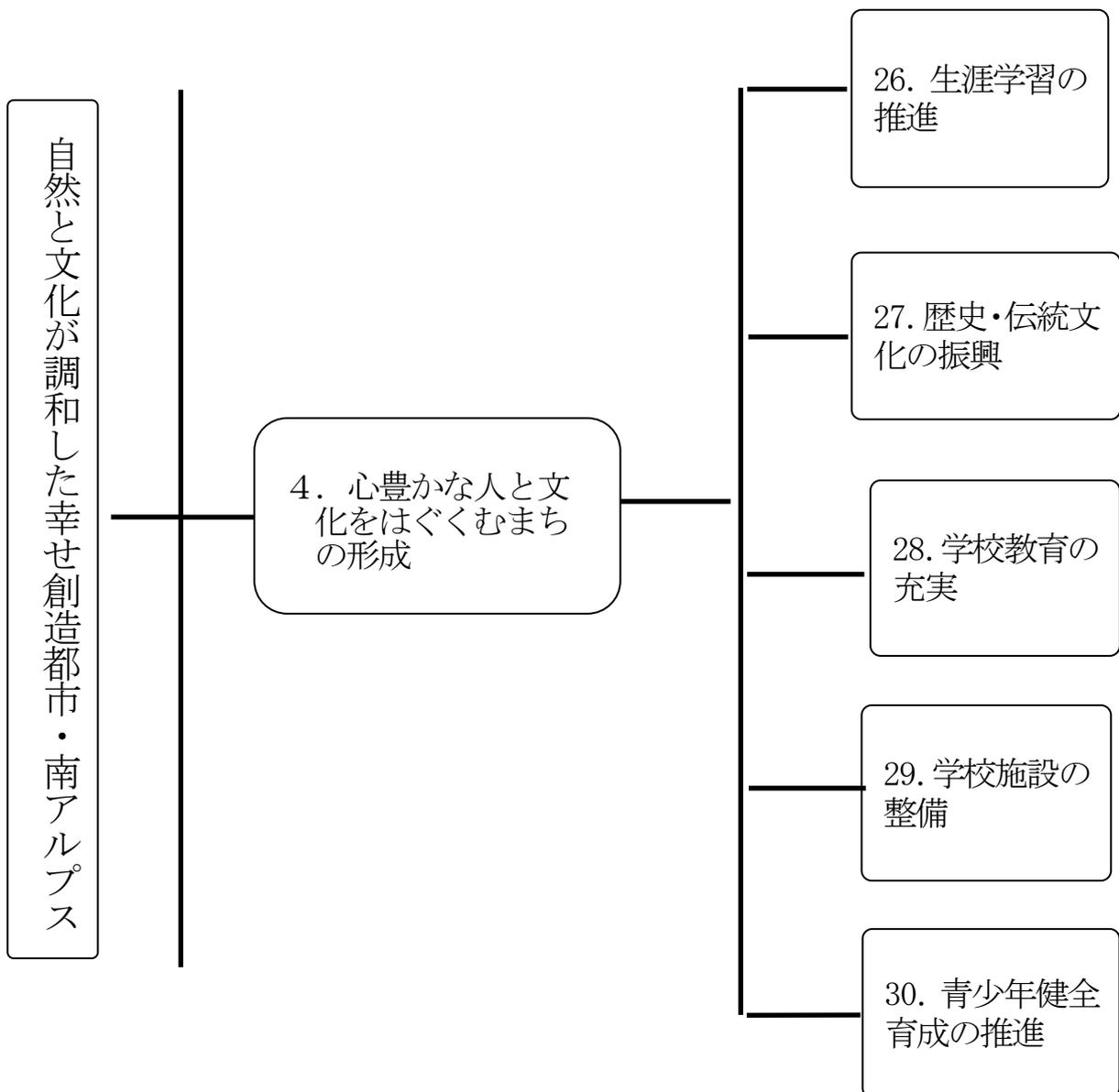
基本政策「心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成」の中に「生涯学習の推進」、「歴史・伝統文化の振興」、「学校教育の充実」、「学校施設の整備」、「青少年健全育成の推進」の5つの施策があります。

2 第2次南アルプス市総合計画（後期基本計画） 体系（教育委員会関係抜粋）

〔将来像〕

〔基本政策〕

〔施策名〕



3 南アルプス市の教育振興プラン 体系（抜粋）

目指す姿	基本目標	施策	施策の柱
<p>南アルプス市の未来を創る人づくり く生きる力を育み、ふるさとを愛する心を培う、南アルプスの教育</p>	<p>未来を切り拓く学校教育の充実</p>	<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>① 個に応じたきめ細かな指導 ② 社会情勢に対応した教育 ③ 特別支援教育の充実</p>
		<p>2 豊かな心の育成</p>	<p>① ふるさと教育の推進 ② 道徳教育の充実 ③ 一人ひとりを大切にした教育・指導体制の充実</p>
		<p>3 健やかな体の育成</p>	<p>① 子どもの体力向上 ② 食育・健康教育の推進</p>
		<p>4 学びを支える環境の整備</p>	<p>① 教職員の資質・能力向上 ② 地域・家庭と連携した学校づくり ③ 小中一貫教育の推進 ④ 学校教育施設・設備の整備・充実 ⑤ 経済的支援の充実</p>
	<p>文化の振興 歴史・伝統 郷土の</p>	<p>5 地域文化の継承とふるさと教育の推進</p>	<p>① 地域資源の保存・活用 ② ふるさと教育の推進</p>
	<p>生涯にわたる学習環境の整備・充実</p>	<p>6 生涯学習の推進</p>	<p>① 学習機会や情報の提供・充実 ② 学習の成果を活かす環境づくり ③ 市民主体の活動支援 ④ 生涯学習拠点の整備 ⑤ 読書活動の推進</p>
		<p>7 子どもの成長を支える環境の整備</p>	<p>① 地域ぐるみで子どもを育む環境づくり ② 青少年の健全育成の推進 ③ 放課後の子どもの居場所づくり (H30より子育て支援課へ移管)</p>
		<p>8 スポーツ・レクリエーションの振興</p>	<p>① 生涯スポーツ活動の推進 ② 人材の育成と団体支援 ③ スポーツ施設の整備・充実</p>

4 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価について

(1) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 26 生涯学習の推進 (42事業)

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
公民館運営管理事業	2	公民館活動としては、公民館長、主事が中心となり、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、4館で事業を計画したが、2館が事業を中止、1館は事業を縮小、残り1館は計画通り事業を実施した。地域住民の交流や文化の振興が図られた。	6
生涯学習推進事業	3	生涯学習施設の感染対策ガイドラインに基づき、人数制限した上で、学習機会や情報の提供を実施した。市民の自主的な学習活動の醸成を図るため「自主企画講座」の開催に注力した。開催回数、受講人数共に前年度比で1.8倍程度となった。	6
社会教育関係団体活動支援事業	2	地域の社会教育団体5団体に対し補助金を交付した。補助金交付決定時は16団体だったが、コロナ禍で事業を中止・縮小する団体があった。事業実施した団体から事業内容を見直した点などを聴き取り、その結果を他団体に紹介することができた。	6
八田高度農業情報センター運営管理事業	3	八田中央公民館機能を有している。指定管理者が新型コロナウイルス感染症対策を講ずることで施設を快適に利用できるよう努めた。年間利用人数は10,747人であった。市民アンケートの結果では、市の文化施設の利用しやすさについて、肯定的回答が過半数を超えており、施設の利用環境は整備されているものとする。	6
若草生涯学習センター運営管理事業	3	若草中央公民館及び生涯学習センター機能を有している。指定管理者が、新型コロナウイルス感染症対策を講ずることで施設利用の向上のため工夫した運営を実施した。年間利用人数は23,717人であった。市民アンケートの結果では、市の文化施設の利用しやすさについて、肯定的回答が過半数を超えており、施設の利用環境は整備されているものとする。	6
甲西農村環境改善センター運営管理事業	3	市直営施設として運営し、シルバー人材センターへ受付業務及び清掃業務を委託している。新型コロナウイルス感染症対策を講ずることで市民が安心して利用できるよう適切かつ効率的な管理・運営に努めた。年間利用人数7,854人であった。市民アンケートの結果では、市の文化施設の利用しやすさについて、肯定的回答が過半数を超えており、施設の利用環境は整備されているものとする。	6
ふるさと天文館運営管理事業	3	ふるさと天文館運営協働会と協働し、口径50cmの望遠鏡を使って天体及び天文現象等の観測及び解説を実施した。新型コロナウイルス感染症対策を講ずることで安心して利用できるよう適切な管理・運営に努めた。利用者数117人であった。	6

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
楡形北地区農村環境改善センター運営管理事業	3	市直営施設として運営し、シルバー人材センターへ受付業務及び清掃業務を委託している。新型コロナウイルス感染症対策を講ずることで市民が安心して利用できるよう適切な管理・運営に努めた。年間利用人数916人であった。市民アンケートの結果では、市の文化施設の利用しやすさについて、肯定的回答が過半数を超えており、施設の利用環境は整備されているものと考ええる。	6
楡形西地区農村環境改善センター運営管理事業	3	市直営施設として運営し、シルバー人材センターへ受付業務及び清掃業務を委託している。新型コロナウイルス感染症対策を講ずることで市民が安心して利用できるよう適切な管理・運営に努めた。年間利用人数680人であった。市民アンケートの結果では、市の文化施設の利用しやすさについて、肯定的回答が過半数を超えており、施設の利用環境は整備されているものと考ええる。	6
南アルプス市働く婦人の家運営管理事業	3	市直営施設として運営し、シルバー人材センターへ受付業務及び清掃業務を委託している。新型コロナウイルス感染症対策を講ずることで市民が安心して利用できるよう適切な管理・運営に努めた。年間利用人数1,668人であった。市民アンケートの結果では、市の文化施設の利用しやすさについて、肯定的回答が過半数を超えており、施設の利用環境は整備されているものと考ええる。	6
生涯学習指定管理施設等維持補修事業	4	生涯学習施設の緊急修繕や維持補修を実施し、市民が安心して利用できるよう適切な管理運営に努めた。緊急的なものについては、優先順位を決め、年度内に行える修繕については、予算を確保し、7施設（17箇所）を実施した。	6
桃源文化会館運営管理事業	3	市民の生涯学習の場として、指定管理者が、新型コロナウイルス感染症対策を講ずることで安心して利用できるよう適切な管理・運営に努めた。年間利用人数は38,209人であった。市民アンケートの結果では、市の文化施設の利用しやすさについて、肯定的回答が過半数を超えており、施設の利用環境は整備されているものと考ええる。	6
桃源文化振興協会運営支援事業	3	専門的知識・技術を有する一般財団法人桃源文化振興協会職員の人件費を補助（運営支援）し、指定管理施設である桃源文化会館を芸術・文化の振興の拠点として、有効かつ効率的に管理・運営させた。	6
市文化協会活動支援事業	2	市文化協会の事務局は桃源文化振興協会が担っている。各地区の文化団体（令和3年度108部1,750人、令和2年度104部1,689人、令和元年度107部1,771人）の活動に対し財政支援することで、芸術文化の普及、生涯学習の振興を図った。生涯にわたって学習活動を行っている割合は24.8%（肯定、やや肯定）で、前年比6.4ポイント減となった。	6
スポーツ推進委員運営事業	3	スポーツ推進委員が行う教室・大会の参加者数は、令和2年度134人から令和3年度638人となった。平時と比べると半数ではあるが、新型コロナウイルス感染症対策を講じる中で内容を精査し開催できた。	8

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
南アルプス市スポーツ協会支援事業	2	スポーツ協会主催事業数を成果の指標としている。コロナ禍において、広く参加を募るイベントは中止となったが、新型コロナウイルス感染症対策を講じる中で各種教室、市駅伝大会等が実施された。	8
県外スポーツ大会出場支援事業	2	県代表として、県外大会へ出場する際の経費負担軽減のため、補助金を交付する事業で、令和3年度平時に比べると申請数は少ないが、令和2年度4件から7件の申請に増加した。	8
南アルプス市ホームタウンゲームの活動支援事業	2	ヴァンフォーレ甲府サンクスデーは実施され、観戦者への特産品PRができた。しかし、山梨クイーンビーズ戦は会場がワクチン接種会場となっていたため中止となった。	8
桃源郷マラソン大会活動支援事業	2	市内外からおおよそ7千人規模のマラソン大会として定着しているが、コロナ禍において令和2年度（18回大会）、令和3年度（19回大会）が中止となり、2年連続で大会中止となっている。なお、市スポーツ協会では、代替事業としてウェブ上で競うヴァーチャルイベントを開催した。	8
スキー・スノーボード教室開催事業	1	参加者数を成果の指標とし、初心者スキー・スノーボード教室を開催している。令和元年度は50人の参加であったが、令和2年度、令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策により事業は中止した。	8
社会体育施設指定管理事業	2	指定管理者に適正な管理運営を委託する事業で、社会体育施設等の利用者数は、令和元年度は525,899人、令和2年度は316,515人、令和3年度は397,052人で前年比約25.4%増であった。休館日数は減少したが、スポーツに対する利用控えが今後の課題と考える。	8
甲西市民総合グラウンド機能回復事業	3	平成28年度から継続的に取り組んでいるリニア中央新幹線建設工事に伴う甲西市民総合グラウンドの移設事業について、契約を締結した土地の所有権移転が完了し、土地代金を全額支払うことができた。さらに、事業継続を希望する事業者が代替地での新事業所建築に向け、契約を締結した。	8
白根B&G海洋センター改修事業	3	平成25年以降に非構造部材の耐震性に関する法律が改正されたことを受けて、施設を安全・安心に利用できるようにすることや、災害時の避難所としての機能確保を図るために設計を完了した。	8
甲西体育センター改修事業	3	平成25年以降に非構造部材の耐震性に関する法律が改正されたことを受けて、施設を安全・安心に利用できるようにすることや、災害時の避難所としての機能確保を図るために設計、工事を完了した。	8
芦安調理場運営管理事業	1	芦安高齢者コミュニティセンター解体に伴い、その調理室機能を移転し、平成30年11月から供用開始した。市民が安心して利用できるよう適切な管理・運営に努めた。利用予約はあったが、新型コロナウイルス感染症対策により全てキャンセルとなった。	6
ホッケー競技普及推進事業	2	コロナ禍において、小学生全国大会等が中止となった。白根地区2中学部活動への外部指導者派遣を行った。	8

所属 : 市立図書館

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
市立図書館運営事業	3	新型コロナウイルス感染症対策により図書館・ふるさと人物室の利用制限があったが、臨時窓口等を設置してサービスを継続した。 図書館内や資料の消毒等を行い新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図り、可能な限り市民の学習活動を高めるための環境を整備した。 ふるさと人物室では、南アルプス市にゆかりのある人物（小野徹・北村雄治）の企画展や講演会を行い、ふるさと教育の推進を図った。	6
市立図書館資料提供事業	3	資料の消毒等感染症対策を徹底し、新聞40紙（延べ）・雑誌359誌（延べ）を市民に提供した。雑誌の貸出数は21,789冊で前年比114%となった。	6
市立図書館子どもの読書活動推進事業	3	開催方法を工夫して「事前申込制おはなし会」、夏休み行事等を行い、子どもたちが継続して本に親しめる環境を整備した。子ども向け事業の参加者数は4,281人で前年比149%となった。 子どもの読書活動推進協議会で「第4次子どもの読書活動推進計画」を策定した。	6
図書館協議会運営事務	3	書面開催を含め3回実施し、コロナ禍における図書館のあり方について協議した。研修会を行い、南アルプス市にゆかりの人物について理解を深めた。	6
図書館システム管理事業	3	定期的にシステム会議を実施し、図書館システムの安全な管理と運営を図り、迅速かつ円滑な図書館サービスを利用者に提供した。ホームページをリニューアルし、利用者の利便性の向上を図った。	6
図書館生涯学習推進事業	3	開催方法を工夫して「講演会」「朗読会」「シニア講座」等を行い、多様な学習機会を提供した。一般向け事業の参加者数は3,382人で前年比219%となった。	6
ブックスタート事業	3	「ブックスタート事業」では、市内で生まれた全ての赤ちゃんと保護者475人に絵本等を、「セカンドブック事業」では、市内の小学校1年生635人に本を贈った。また、読書離れの進む小学校4・5・6年生と中学生を対象におすすめの本を紹介する「サードブック事業」を開始し、子どもの発達段階に応じた読書支援を行った。	6
図書館資料購入事業	3	暮らしに役立つ資料及び地域資料等を市民に提供するため、選書会議を週1回行い、購入資料を検討した。資料貸出総数は年間364,852冊で、前年比124%となった。 資料の消毒等新型コロナウイルス感染対策を徹底した。	6

所属 : 市立図書館

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
図書館事務研修事業	3	学校図書館との合同研修会を実施し、図書館運営に反映した。新型コロナウイルス感染症対策により、中止となった研修会も多かったが、図書館の動向や資料情報を得るために可能な限りオンラインにて研修会に参加した。	6
楡形生涯学習センター管理事業	3	新型コロナウイルス感染症対策により臨時休館があった。サーマルカメラ・パーテーション・空気清浄機の設置、消毒等を行い新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図った。ロビー展示や映画会などを実施し可能な限り市民の学習活動を高めるための環境を整備した。 外壁タイルの補修工事を行った。また、施設は開館から23年となり経年劣化していることから今後の修繕計画を作成した。	6
図書館司書会計年度任用職員配置事業	3	市立図書館（5館1分館）の円滑な運営を図るために、図書館司書会計年度任用職員を配置し、効果的な図書館運営を行った。	6
白根生涯学習センター運営管理事業	3	新型コロナウイルス感染症対策により臨時休館や開館時間の短縮を行った。サーマルカメラ・パーテーション等の設置、消毒等を行い感染症対策の徹底を図り、可能な限り市民の学習活動を高めるための環境を整備した。	6

所属 : 市立美術館

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
美術館企画展事業	3	企画展として「リサとガスパールのおもいで」展を開催し、4,675人の入館者があった。今後も質の高い魅力ある展覧会を開催し、市民の文化意識を高めるとともに、入館者の増加促進を図っていく。	6
美術館常設展事業	2	常設展として「遠藤享」展、「川崎小虎」展、「木村利三郎」展、「宮本和郎」展、「美術館なぜなぜ」展、「スター作品勢揃い」展、「信玄公」展を開催し、4,744人の入館者があった。新型コロナウイルス感染症対策を講じながら各展示室の人数制限に努め、収蔵作品の中から新しい視点で工夫を凝らした展覧会を開催するなど、感染症対策で制限がある中でも親しみがあり、芸術文化の楽しみを発見できる事業を展開した。	6
教育普及事業	2	新型コロナウイルス感染症対策のため、ワークショップや体験講座などは、参加人数を制限して開催した。また、学校に出向く「出張美術館」を積極的に実施し学校の美術活動を支援した。企画展開催時のワークショップをはじめ、多様なニーズに応じた教育普及活動を実施できた。年間延べ450日の開催で2,716人の参加者があった。今後も引き続き博学連携の強化を図り、教育普及事業を推進していく。	5
旧白根桃源美術館維持管理事業	3	国の登録有形文化財である旧飯野産業組合倉庫（旧白根桃源美術館本館）の維持管理が適切に図られた。	5

(2) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 27 歴史・伝統文化の振興 (13事業)

所属 : 文化財課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
文化財保護活用事業	3	本年度、小笠原の「金丸家土蔵」が新たに国の登録有形文化財となっている。その他の文化財についても、国、県と連携して適切に対応することができた。	5
文化財教育普及事業	3	実施した講座等の回数は161回、延べ参加人数は、6,632人であった。それぞれ前年比107%、109%と増加しており、コロナ禍の影響は令和2年度より小さかった。	5
宝珠寺のマツ松くい虫防除支援事業	3	同木が樹勢を保った年数を成果の指標とし、文化財所有者の行う松くい虫防除事業の補助を行った。合併後18年間木の状態は良好に保たれている。	5
鏡中条のゴヨウマツ松くい虫防除支援事業	3	同木が樹勢を保った年数を成果の指標とし、文化財所有者の行う松くい虫防除事業の補助を行った。合併後18年間木の状態は良好に保たれている。	5
長谷寺の防災施設保守点検支援事業	3	建造物が良好に維持された年数を成果の指標とし文化財防災施設保守点検事業の補助を行った。合併後18年間建造物は良好に保たれている。	5
文化財教育普及看板設置事業	3	本年度は、飯野の若宮八幡神社本殿（市指定文化財）1基を更新した。	5
埋蔵文化財調査受託事業	3	県ほ場整備事業に伴う発掘調査1件、県道整備事業に伴う発掘調査1件、民間開発に伴う整理作業1件を受託し、適切に記録保存措置が図られた。	5
市内試掘確認調査事業	3	市内の遺跡の保護を図った数を成果の指標とし、達成率は100%。試掘調査の実施件数は17件であった。	5
国指定史跡「御勅使川旧堤防」整備事業	3	柵形堤防について、整備工事を行うための実施設計を業務委託した。令和4・5年度で整備工事を実施予定。	5
ふるさと文化伝承館運営事業	2	本年度の入館者数は5,484人で、前年比119%と増加したが、コロナ禍前の7,000人台には届かず、新型コロナウイルス感染症対策による影響を受けた。その中で展示やイベントは可能な限り開催した。	5

所属 : 文化財課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
安藤家住宅運営管理事業	2	本年度の入館者数は3,227人で前年比125%と増加したが、コロナ禍前の5,000人台には届かず、新型コロナウイルス感染症対策による影響を受けた。その中で催事については可能な限り開催した。	5
安藤家住宅イベント開催事業	2	新型コロナウイルス感染症対策により「秋祭り」は、実施を見送ったが、感染対策を実施し、「ミニ門松づくり」、「むかし遊びとお話会」、「紅葉ライトアップ」などを実施した。	5
ふるさと〇〇博物館推進事業	3	年次計画に基づき、甲西地区の歴史的資源の掘り起こし作業を行ったがコロナ禍により、十分なフィールドワークはできなかった。一方で「デジタルアーカイブ」への地域資源の登録件数は順調に増え、令和3年度末時点で792件を数えている。	5

(3) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 28 学校教育の充実 (45事業)

所属 : 教育総務課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
教育長交際活動費	3	教育行政執行のため外部との交際上必要な経費である。内部基準に照らし執行している。	-
教育委員活動事業	3	定例教育委員会の開催。コロナ禍のため、視察時間を短縮する中で22校の学校訪問を実施した。研修はオンラインによる研修については出来る限り参加した。	-
教育委員会事務局管理事務	3	公用車、コピー機等の管理、電気の使用、コピー用紙のリサイクルなど、無駄のない予算管理に努めた。	-
巨摩高校定時制教育振興会参画事業	3	生徒が行う部活動や校外活動に対し、本市のほか、富士川町、中央市や生徒の雇用主、同窓会等で組織する教育振興会が支援を行うため、負担金を支出した。	-
小林愛則育英奨学会支援事業	3	将来、社会の中核となる人材を育成する目的として、高校3年間奨学金を給付している。令和3年度は7名に奨学金の給付を行った。	4
芦安活性化対策育英奨学金貸付事業	3	芦安地区の過疎対策事業として育英奨学金貸付事業を行った。令和3年度は1名に奨学金の貸与を行った。	4
南アルプス市奨学金貸与事業	3	高校生や大学生の保護者に対して、適正に奨学生の選考、貸与事務を執行することができた。	4

所属 : 学校教育課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
教育支援センター運営管理費	3	学校へ登校することが困難な児童生徒への学習支援・教育相談を行っている。保護者や学校と連携を図る中で、学校復帰・高校進学を目指して取り組んだ。また、教育相談員と臨床心理士による入所生徒や保護者へのカウンセリングを通して、児童生徒への支援を丁寧に行った。在籍者8人(うち2人は小学生)のうち、高校進学者4人であった。	2
市単講師派遣事業	3	目標どおり34人の市単講師等を配置し、支援を必要としている児童生徒に対して、きめ細かな指導をすることができた。支援が必要となる児童生徒は増加傾向にあるので、市単講師の増員が課題である。	1
司書臨時職員配置事業	3	目標どおり13人の市単司書を配置し、芦安小中学校は兼務、それ以外は1校1人の配置ができた。今後も現状を維持し、学校図書館の有効活用を支援する。	4

所属 : 学校教育課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
用務員臨時職員配置事業	3	目標どおり芦安小中学校を除く学校に、児童生徒が快適に学校生活を送ることができるよう市単用務員を配置することができた。	4
学校図書館蔵書管理事業	3	学校図書館の蔵書とその貸出等をシステムで管理するとともに、学校・公立図書館間で情報共有を行うことができた。	4
学事管理事務	3	学齢簿の管理や転学等の就学事務を円滑に実施することができた。さらに、学校予算のうち学事管理事務で一括計上できるものは予算を集約・削減に努めた。	4
学びの質を高める授業づくり推進事業	2	指定校（2年次：豊小 1年次：落合小・白根巨摩中）を定め、児童生徒が互いの意見や考え方を聴き合い、学び合う授業づくりを目指し研究を深めた。また、授業公開によって、研究内容を市内の小中学校に示した。年度末には教育委員会が主催し、市内22校の教職員を対象とした成果報告会と講師を招聘しての教育講演会をオンラインにて実施した。	1
南アルプス自然体験推進事業	2	ユネスコエコスクールである芦安小中学校を対象に南アルプス市の身近な自然を生かした体験学習を通して、児童生徒に南アルプス市の自然や伝統文化について学ばせる機会としている。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、中学校の自然パトロールや登山、小学校は楡形山登山や森林学習を実施した。	2
いじめ・不登校未然防止推進事業	2	小学校5年、中学校1年でQ-U検査を実施し、学級、学年の集団分析を行い、いじめや不登校の未然防止、早期解消に向け、その活用を図った。また、教育講演会を実施して困難を抱える児童生徒やその保護者の理解、学校としての支援のあり方等について研修を深めた。いじめについては、解消率が98%を超えた。不登校については、全国的にも上昇する中、本市においても上昇している。	2
スクールガードリーダー事業	3	児童生徒が安全に安心して登下校できるように、通学路の巡回や学校周辺のパトロールを実施した。なお、研修会等の実施は新型コロナウイルス感染等の影響により中止となった。	4
教育推進管理事務	2	指導主事等の研修会の開催は、オンラインで行われ、研修内容等を市内22校に還流しながら、必要な指導・助言を行った。また、国や県からの指導、教育雑誌から得られた最新情報、研究結果等を具体化し、学校訪問や研究会で提示した。	4
南アルプス市学校応援団育成事業	2	各中学校区のコーディネーターを中心に、地域ボランティアを募り、見守り隊を含め約1,600人程の登録をいただいた。読み聞かせや農業体験をはじめとした体験活動や環境整備等、学校の要望に対応した講師を派遣することができた。大学生の学生サポーターは4人に留まったが、児童・生徒のための支援を行うことができた。	4

所属 : 学校教育課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
学校災害補償保険事業	3	学校施設の瑕疵等、財物の滅失等の損害、学校管理下における児童生徒等の事故等の災害に対する保険に加入した。	4
小中学校清掃委託事業	3	入札により選定した業者により小中学校22校の校舎、体育館等の清掃を行い、快適な学校環境の維持向上に努めた。	4
第二次小中学校教育系情報ネットワーク整備事業	3	事務効率の向上のため教職員に一人1台端末の配置や校務支援システムの提供等を行い児童生徒と向き合う時間の確保に努めた。また、平成27年度に導入したタブレット型端末の保守を行った。	4
若草南小学校情緒障害通級指導教室	4	市内の小学校の普通学級に在籍する支援を必要とする児童を対象に、自立活動を行っている。令和3年度は市内12校から35人の児童が通級した。北部地区での開設の希望により、白根百田小で巡回指導を実施した。	4
小中学校における小笠原流礼法推進事業	2	小笠原流礼法宗家本部と関わりながら、礼法指導を行う2人の師範を市内小中学校22校に派遣した。各クラス2回ずつ授業を行い、小中学校9年間を通し、心を育てる指導をした。教職員対象に卒業証書授与伝達講習会等を実施し、指導にあたる教職員の理解度も高めてきた。	2
学校消火器管理事業	3	製造から10年を経過し、法令上期限切れとなる市立小中学校に設置済みの消火器の入替を行った。	4
外国語指導講師配置管理事業	3	1人のアドバイザーと11人のALTを配置し、小・中学校において英語でのコミュニケーション指導を行った。通常の授業の他、教職員の英語力・指導力アップのための研修も行った。	1
小学校地域ふれあい道徳教育推進事業	2	児童の「心の教育の充実」を図るため、地域の人々とのふれあいを中心とした道徳教育を行うための事業である。講演会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、多くの学校で講座が中止となった。	2
小学校要保護就学援助及び特別支援教育就学奨励費事業(補助)	3	要保護世帯の児童1人の保護者に対し修学旅行費の一部を、特別支援学級に在籍する児童101人の保護者に対し特別支援教育就学奨励費を支給することができた。	4
小学校準要保護就学援助事業(単独)	3	準要保護世帯の児童284人の保護者に対し就学援助費を支給することができた。さらに、新入学用品費の入学前支給も43人に実施することができた。	4
中学校部活動コンクール・コンテスト参画事業	3	中学校の合唱部や吹奏楽部等が各種大会に参加するための負担金の支払いを行った。	4

所属 : 学校教育課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
中学校ヘルメット購入 支援事業	3	市内の自転車通学の218人に対し、ヘルメット購入代金の半額を補助した。	4
中学校地域ふれあい道 徳教育推進事業	2	生徒の「心の教育の充実」を図るため、地域の人々とのふれあいを中心とした道徳教育を行うための事業である。講演会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため多くの学校で講座が中止となった。	4
中学校関東大会・全国 大会支援事業	3	学校教育活動の一環として県外で行われる関東・全国大会に出場する経費の一部を補助した。	3
中学校要保護就学援助 及び特別支援教育就学 奨励費事業（補助）	3	要保護世帯の生徒2人の保護者に対し修学旅行費の一部を、特別支援学級に在籍する生徒28人の保護者に対し特別支援教育就学奨励費を支給し援助することができた。	4
中学校準要保護就学援 助事業（単独）	3	準要保護世帯の生徒185人の保護者に対し就学援助費を支給することができた。さらに、新入学用品費の入学前支給も67人に実施することができた。	4
教育相談事業	3	多様化する児童・生徒の諸問題に対し、臨床心理士と教育相談員を配置し、児童・生徒及び保護者等の相談を行った。今後も、低年齢のうちから継続的な相談を行える体制の強化をしていく必要がある。	2
部活動指導員任用事業	2	白根巨摩中（テニス部）、白根御勅使中（ホッケー部）芦安中（バドミントン部）の部活動において外部指導員を雇用し、部活指導教員の支援及び生徒の技術等の向上を図ることができたが、2学期中はコロナ禍のため、部活動ができない時期があった。	3
小中一貫教育研究推進 事業	2	八田地区・芦安地区で小中一貫校3年目を迎え、推進協議会で成果と課題について話し合った。新型コロナウイルス感染症対策のため、議論が足踏み状態となっていたが、楡形・若草・白根巨摩地区では協議会を開催し、それぞれの地域の特徴を生かせるような一貫校設置に向けての取り組みを進めた。	4
第三次小中学校教育系 ネットワーク整備事業	3	令和2年度の文科省のGIGAスクール構想に沿って、各小中学校に無線LAN環境を整備、また、購入した児童生徒1人1台のコンピュータを正常に使用できるようにするための保守管理を行った。	4

所属 : 学校教育課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
楡形中学校情緒障害通級指導教室運営事業	3	市内の中学校の普通学級に在籍している支援を必要とする生徒を対象に楡形中学校にサポートルームを開設した。38人の生徒が在籍し、生活上、学習上の困難の改善、解消のための自立活動を行った。また、白根巨摩中学校の巡回指導を行った。	4
教育支援体制整備事業	4	新型コロナウイルス感染症対策や子どもの学びの補償をサポートし、学校教育活動を支援する学力向上支援員及び教員の業務を補助するスクールサポートスタッフを配置した。	4

所属 : 市立学校給食センター

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
学校給食費徴収事業	3	令和3年度の給食費の収納率は99.77%であり、新型コロナウイルス感染症対策により給食費の無償化を実施した令和2年度の収納率99.75%とほぼ同程度となった。	3
学校給食費支援事業	3	市内に住所を有し、同一世帯において小・中学校に3人以上の子どもが通っている保護者を対象に、当該年度に発生する給食費の一部を助成する事業である。4月から翌年2月の11ヶ月分を助成した。広報で広く呼びかけ、学校との連絡を密にして申請漏れのないように努めた結果、申請者は159人、支給者は157人であった。	3
北部学校給食センター給食事業(学校給食)	2	栄養教諭等の学校給食時の食育指導(10校)による訪問は、新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年度に引き続き控えたが、学級担任、給食主任と連携し、指導資料を学校に掲示するなど工夫しながら対応した。またアレルギー食の対応(小中学校32名、保育所12名)は通常通り行った。地場産物については、県内産の米や牛乳の他、6月にさくらんぼ、7月にすももと市内産の果物を取り入れるなど、給食費の範囲内で提供した。	3
南部学校給食センター運営事業	2	栄養教諭等の学校給食時の食育指導(12校)による訪問は、新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年度に引き続き控えたが、学級担任、給食主任と連携し、指導資料を学校に掲示するなど工夫しながら対応した。また、アレルギー食の対応(50名)は通常通り行った。地場産物については、県内産の米や牛乳の他、6月にさくらんぼ、7月にすももと市内産の果物を取り入れるなど、給食費の範囲内で提供した。	3

(4) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 29 学校施設の整備 (6事業)

所属 : 教育総務課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
小学校施設設備整備事業(単独)	3	学校からの修繕要望に対し、設計、調査等を17件と楡形北小学校校庭防球ネット改修工事ほか94件の修繕工事を実施した。	4
中学校施設設備整備事業(単独)	3	学校からの修繕要望に対し、設計、調査等を22件と甲西中学校屋内運動場トイレ洋式化工事ほか58件の修繕工事を実施した。	4
落合小学校校舎大規模改造事業	3	校舎大規模改造工事に続き、校舎周辺の駐車場・渡り廊下及びグラウンド拡張整備を行い、教育環境の改善を図った。	4
楡形北小学校排水設備改修事業	3	公共下水道の供用開始に伴い、校内の浄化槽設備を撤去し、公共下水道への接続工事を実施した。	4
若草小学校改築事業	3	若草小学校改築に伴い、新しい学校づくりの基礎となる「若草小学校改築基本計画」を策定した。	4
若草中学校部室等改修事業	3	老朽化した部室棟の改築及び駐輪場移設、テニスコート改修工事の設計業務を実施した。解体した給食センター跡地を舗装工事を実施した。	4

(5) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 30 青少年健全育成の推進 (12事業)

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
青少年国内交流事業 (津別町)	1	令和3年度は、小学生20人で訪問予定だった。 コロナ禍における実施の可否を十分に協議した結果、中止とした。	7
青少年国内交流・交流 支援事業(小笠原村)	1	令和3年度は、中学生とジュニアリーダーが参加し小笠原村訪問 団を受け入れる予定だった。 コロナ禍における実施の可否を十分に協議した結果、中止とし た。	7
青少年国内交流・交流 支援事業(穴水町)	1	令和3年度は、小学生とジュニアリーダーが参加し穴水町訪問団 を受け入れる予定だった。 コロナ禍における実施の可否を十分に協議した結果、中止とし た。	7
青少年育成コーディネーター設置事業	3	青少年の健全育成活動を推進する市民会議の事務局業務を担う。 子どもクラブ・育成会・青少年育成推進員・自治会・学校・PTA 等と連携を図り、地域性を生かした活動を図るため、関係機関と の連絡・調整を担いコロナ禍でできる事業を円滑に推進した。	7
青少年育成推進会議運 営事業	3	110人(定員112人以内)の推進員が、市民会議専門委員会に所属 し、青少年活動や地域イベントなど広く活動を展開している。 夏休み・冬休みにチラシを配布、年度末に広報誌を発行し、コロ ナ禍における「新しい生活様式」での過ごし方や取組みについて 啓発活動を行った。	7
ジュニアリーダー養成 事業	2	中高校生を対象に、地域や学校でリーダーとして活躍を目指す子 どもを育成することを目的とする。年間10回の活動(屋外を含 む)を計画したが、コロナ禍において、年間4回のみ活動と なった。	7
成人式挙行事業	4	新成人の門出を祝い自立を促す事業とし、毎年1月に開催。 実行委員会を立ち上げ、万全な新型コロナウイルス感染症対策を 実施し、新成人による企画運営で式典を挙行了。また、来場で きない新成人・保護者のため、YouTube動画配信を行った。(成人 者853人中663人、参加率77.7%) (前年度 成人者772人中552 人、参加率71.50%)	7
市子どもクラブ指導者 連絡協議会支援事業	1	子どもクラブ毎に子どもの育成事業を実施している(76団体)。 子どもクラブ指導員理事と、事業実施に向けて検討を図ったが、 新型コロナウイルス感染症対策により事業はすべて中止となっ た。	7
南アルプス警察署管内 少年補導員支援事業	3	少年の非行防止活動の推進及び、各種防犯団体の活動支援や関係 団体との連携を図る活動を目的とした協議会への補助金を交付。	7

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
キッズタウン南アルプス支援事業	1	地域人材を生かした職業体験事業として、実施主体である青年会議所と商工会青年部との合同実行委員会に補助金を交付する。平成29年度参加者は小学生134人、平成30年度は203人、令和元年度は213人と年々増加している。地元の人の仕事を体感し、憧れや興味を抱き、伝統や仕事の大切さを学ぶ貴重な機会であるが、コロナ禍において中止となった。	7
情報機器教育推進事業	3	平成28年度からSNS利用やネット環境について研修会を開催している。事業を見直し、対象は小学5年生から中学3年生とその保護者とし、正しい使い方、向き合い方について出前授業を4回(3校)実施した。小・中学校合同による授業も実施した。	7
青少年育成南アルプス市民会議支援事業	3	広く市民が青少年問題の重要性に着目し、健全育成を図ることを目的に様々な活動を活発に展開している。事業の見直しを図り、登下校時のみまもり活動を活発にするため、全支部で関係団体に「みまもりたすき」を配布した。各支部に青少年育成コーディネーターを配置し、専門的な立場で指導・助言を図り、補助金を交付し支援を行っている。	7